

特講・社会福祉学10 (スクール・ソーシャルワーク論)		科目コード	DT2210
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(講義)	1年以上	川口 正義

※この科目は2020年2/29・3/1の仙台会場で受講が可能です。受講希望者は2019.12/24までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

スクールソーシャルワーク（SSW）は人権と社会正義を基盤とし、児童生徒が学校生活を円滑に送れるようにするための、また教師や学校組織が立案した教育活動を十分に展開できるようにするための方法・技術です。

スクーリングでは今日の学校現場の現状と課題をふまえたうえで、わが国の学校現場で切に求められてきているスクールソーシャルワークの概念、支援方法、役割及び課題について皆さんとともに学び、考えてみたいと思います。 ※この科目の担当教員は、福祉の相談援助の実務経験を有します。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	学校教育現場を取り巻く現状と課題	児童生徒、保護者・家族、こどもの貧困、教師・学校
2	SSWを導入する必要性、目的と価値、機能	導入に至る経緯、概念、視点、目的、機能、活動スタイル、職務内容
3	教師、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの役割分担	それぞれの役割と違い
4	SSWの実践①	事例の紹介
5	SSWの実践②	事例検討（グループワーク）
6	SSWの可能性と意義	SSWに期待される役割
7	SSW活用に際しての留意点、今後の課題	学校・教職員との連携のあり方、課題
8	質疑応答	社会福祉士への役割期待と課題
9	スクーリング試験	

■到達目標

- 1) 学校現場の現状と課題をふまえたうえで、スクールソーシャルワークを導入した必要性と目的について述べることができる。
- 2) スクールソーシャルワークの価値、倫理について解説することができる。
- 3) 学校・教師文化の特徴、及びスクールソーシャルワークの基本的視点と役割、機能、支援方法について説明することができる。
- 4) スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割の相違点、及び連携の必要性につ

いて説明することができる。

5) スクールソーシャルワーカーに必要な資質と専門性について述べることができる。

6) 日本におけるスクールソーシャルワークの今後の課題について述べるができる。

■スクーリング 評価基準

- ・ 授業への参加状況50%+スクーリング試験50%（持込みはすべて不可）
- ・ 試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえたうえで、試験テーマについて自分自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング時の教科書・講義の進め方

スクーリングにあたって、当日、講義ノート、資料を配付し使用します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

参考図書などをもとに、スクールソーシャルワークとはどのような営みであるのか、その目的や役割などについて自分なりに考えイメージしてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

学校教育現場と子ども・保護者・家庭を取り巻く社会状況に関心を寄せるなかで、スクールソーシャルワークが担うことができる役割と可能性について、さらに学習を深め考えていってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関係

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■参考図書

- ・ 門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと—学校ソーシャルワーク実践ガイド—』中央法規出版、2009年
- ・ 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修、門田光司・富島喜揮・山下英三郎・山野則子編『スクール [学校] ソーシャルワーク論』中央法規出版、2012年
- ・ 山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2012年
- ・ 門田光司・奥村賢一監修、福岡県スクールソーシャルワーカー協会編『スクールソーシャルワーカー実践事例集—子ども・家庭・学校支援の実際—』中央法規出版、2014年
- ・ 末富芳編著『子どもの貧困対策と教育支援—より良い政策・連携・協働のために—』明石書店、2017年
- ・ 日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規出版、2008年
- ・ 山野則子『学校プラットフォーム—教育・福祉、そして地域の協働で子どもの貧困に立ち向かう—』有斐閣、2018年